

鳥取県境港市、人口3万6千の水産業のまちですが、ご存知のNHK朝ドラ「ゲゲゲの女房」で大人気。水木しげるの漫画「ゲゲゲの鬼太郎」を商店街の活性化につなげ、各地からまちおこしの視察がひきもきらないと言います。

鬼太郎をはじめとする妖怪たちのオブジェをJR境港駅から続く商店街、およそ800mの歩道に設置して料亭を改装した「水木しげる記念館」につなげて、人々を呼び込もうという戦略。

もともとは、「緑と文化のまちづくり」を検討していくから着想、空洞化し始めた目抜き通りを「コミュニティーロード」として、車道を狭め、歩道を拡げる都市整備事業を発展させた「まちおこし」といいます。

境港出身の水木しげる氏の全面協力あってこそではあるけれど、妖怪世界は、昔から、この地方にあった民話や伝承を発展させたものとも。

オブジェは、市が設置した当初の23体のブロンズ製(1体100～200万円)は、現在、139にまで増えています。私も、どんなモノかと思っていたのですが、意外と美しい。

本体自体は、どれも高さ30センチ程度と小さく、それが一塊もある黒御影石の上部や、くり抜いた中に収めてあって、子どもの目の高さにあり、触れることが出来るつくりになっています。思ったほどの押し付けがましさやおどろおどろしさは感じず、鑑賞できるものでした。若干は、漫画チックな等身大のものもあり、妖怪神社だのは…でしたが、ま、つくりでしょうね。

西尾には、水木しげるさんはいませんが…、参考となる点は、いくつも。

もともとの発想は、境港市役所の若手プロジェクトチーム。平成5年、空き店舗の増えた商店街に妖怪なぞ持ち込んだら、もっと寂れると反対する店主を「根気よく説得して始まった」といいます。そして、それを継続させたのが「民間人の登用」。観光協会の会長を市長ではなく、他県出身の企業人を登用して、次々に新企画を打ち出すネットワークの軽さ、マスコミにうまく売り込む戦略は、大成功につながったと思います。

新企画は、みな参加型。境港妖怪検定、妖怪そっくりコンテスト、妖怪川柳大会…商店街振興会によるゲタ積み大会、青年会議所による鬼太郎ゲタ飛ばし大会etc

そっくりコンテスト入賞者を次のイベントに出席してもらおうとか、観光客でも誰でも、当日参加ができるつくりには習うべきものがあると感じました。